

認定看護師便り

第11号

オペナーシング雑誌に掲載されました「忘れられないあの一言」

文責：看護部 濱崎弘子



西宮市立中央病院
Nishinomiyama Municipal Central Hospital



《掲載雑誌の紹介》
 一步先をゆくORナースをサポートします。
 手術看護NO.1専門誌
 OPE NURSING 11月号
 2013 vol.28

「成長している証拠だから頑張ってる。」

季節は秋から冬へとかわろうとしていた時、突然の手術室への異動はなしにとてもびっくりしたことを覚えています。私は手術室配属前、外科病棟での勤務でしたので、手術室との関わりはありませんでした。

しかし手術室がこんなにもめまぐるしく時間が過ぎているとは想像も出来ず、手術室での勤務は未知の世界が広がっていました。

手術室は手術の準備から片付けに至るまで、外回り看護師・器械出し看護師を中心に、それぞれの担当はきっちりとある上で他のメンバーがフォローに入り1つの手術を作り上げていくという形で、チームワークがしっかりと形成されていました。私は初めその中で何一つ出来ずに自分にも無力感を感じ、このチームの一員としてやっていけないのかどうかという大きな不安にかられました。

そんな中器械出し看護から学んでいく日々が始まりました。学ぶ一つ一つの事が初めての事で戸惑うことが多く、毎日が緊張の連続でした。これまでの病棟での経験はほとんど役に立っていないように感じ、手術室ではまったくの新人看護師としての始まりでした。

ただ「初めてのこと・慣れないこととは言葉一人の看護師として、それは患者様に通用しない」それを心に留めながら日々の業務に無我夢中で励みました。しかし何度か経験した手術でも上手く器械出しが出来ず、どうして出来ないのだろうかと思んだ事がありました。そんな時先輩看護師が「初めての時は何が出来て、何が出来ないのかもわからずして、何が出来た事か経験した事で出来る事・出来ない事がわかるようになってきた。出来ない事がわかるようになって、少しずつ全体がみえてきています。成長している証拠だから頑張ってる」とアドバイスをしてくれました。上手く出来ない事はかたに意識がいき、後ろ向きな考え方になっただけでしたが、この先輩看護師の一言のおかげでもともと気持ちに切り替えることができました。

手術室に配属されて1年が過ぎました。未だに出来ない事の方が多くあるとは思いますが。しかしあの時の先輩看護師のアドバイスのおかげで出来る事を確実にやっていくことで、チームの一員としての役割を果たしていこうと思える様になりました。これから先私に先輩が出来た時、私と同じ悩みで不安を感じない様にこの経験を活かして関わっていただけるいいなと思っています。

手術部では、このように新人が安心して、一人前にレベルアップできるように・・・全員で力を合わせてサポートしています。

